

報道関係者各位

日本CCS調査株式会社

## 「Japan-Asia CCUS Forum 2020」 10月6日 オンライン開催のお知らせ

日本CCS調査株式会社（本社：東京都千代田区、社長：中島俊朗）は、CCSの世界的なシンクタンクであるグローバルCCSインスティテュート（本部：オーストラリア、メルボルン、日本代表：南坊博司）との主催により、「日本およびアジアにおけるCCS/CCUSの今後」をテーマに「Japan-Asia CCUS Forum 2020」をオンラインにて開催します。

本フォーラムでは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の委託事業として当社が北海道苫小牧市にて実施しているCCS大規模実証試験から得られた成果や知見など、日本におけるCCS/CCUS技術開発の最新動向について紹介するほか、日本国内におけるCCSの実用化、そしてアジアにおける今後のCCSの展開とキャパシティビルディングについて、この分野に造詣の深い国内外の著名な専門家をお招きしてご講演頂くとともに、今後のCCS/CCUSに関するアジアにおける国際連携の強化についても深く考える機会にしたいと考えております。

地球温暖化の脅威は世界各地で深刻さを増しており、産業革命前からの気温上昇を1.5°C以下に抑えようというパリ協定の目標達成への国際的な機運はますます高まっています。また、脱炭素社会の実現、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、省エネの推進や再生可能エネルギーの拡大のみならず、経済活動から排出される二酸化炭素を回収・利用・貯留するCCS/CCUSという気候変動緩和技術を社会実装することへの期待は、極めて大きなものとなっています。

オンライン開催ではございますが、より多くの国内外の方々にご視聴頂ける良い機会であることと思っております。多くの皆様のご視聴をお待ちしております。

- お申込みはこちらから：

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_WV4DOvxMSfCiKFyX9jpbA](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_WV4DOvxMSfCiKFyX9jpbA)

- 本イベントの詳細はこちらをご覧ください。

[https://www.japanccs.com/news/201006\\_ccus-forum-2020/](https://www.japanccs.com/news/201006_ccus-forum-2020/)

- 日英の同時通訳があります。
- 演題、講演者、講演内容、講演の時間帯は予告なく一部変更になる場合があります。予めご了承ください。
- 講演は配信プラットフォーム上でZOOMにて配信します。

## 1. 開催概要

- 日 時 : 2020年10月6日(火) 10:00~16:45  
開催方法 : オンライン開催(媒体: ZOOM)  
会議言語 : 日本語・英語(同時通訳)  
定 員 : 400名(登録先着順※)  
※申込数が定員を超えた場合、ご参加いただけない場合があります。  
主 催 : 日本CCS調査株式会社(JCCS)、グローバルCCSインスティテュート(GCCSI)  
共 催 : 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)  
後 援 : 経済産業省(METI)、公益財団法人地球環境産業技術研究機構(RITE)

## 2. 開催目的

日本におけるCCS/CCUS技術の最新動向を、苫小牧CCS大規模実証試験の成果をベースに国内外に発信し、国内におけるCCSの実用化やアジアにおけるCCS/CCUSのキャパシティビルディングおよびさらなる展開について議論する。(全三部構成)

第一部: 苫小牧CCS大規模実証試験の成果と今後の展望を国内外に発信。

第二部: 我が国のCCS導入のあり方に係る検討結果を踏まえ、我が国におけるCCS普及に向けての議論。

第三部: 今後のCCS/CCUSプロジェクトのアジア展開やキャパシティビルディングの推進に向け、アジアにおける日本のリーダーシップ確立の契機とする。

## 3. プログラム

10:00	司会開会宣言・後援関係者/共催者/主催者挨拶
10:15	第一部「苫小牧CCSプロジェクトの成果と今後の展望」 ■ 来賓挨拶: 苫小牧市長 岩倉 博文 ■ 講演「苫小牧CCSプロジェクトの成果と今後の展望」 日本CCS調査(株) 顧問 石井 正一 ■ 招待講演 ■ 海外からのメッセージ ■ 第一部質疑応答および総括
11:45	休憩
13:00	第二部「我が国におけるCCS普及に向けて」 ■ 講演「2050年に向けたCCSへの期待(仮題)」 京都大学 名誉教授 松岡 俊文 ■ パネルディスカッション「我が国におけるCCS普及に向けての議論」 二酸化炭素地中貯留技術研究組合 理事長 山地 憲治(ファシリテーター) ■ パネラーによるショートプレゼンテーションおよびパネルディスカッション ■ 第二部質疑応答および総括
14:30	休憩
15:15	第三部「2050年を見据えたアジアにおける今後のCCS展開」 ■ 主催者講演「Global status of CCS and CCS deployment in Asia」 Global CCS Institute, CEO, Brad Page ■ パネルディスカッション「2050年を見据えたアジアにおける今後のCCS展開」 Brad Page(ファシリテーター) ■ 第三部質疑応答および総括
16:45	閉会

## <会社概要>

名 称	日本CCS調査株式会社
事 業 内 容	二酸化炭素（CO <sub>2</sub> ）の分離・回収、利用、輸送及び地中貯留技術の調査、研究開発、事業化調査、実証試験
代表取締役社長	中島 俊朗
所 在 地	東京都千代田区丸の内一丁目7番12号
U R L	<a href="https://www.japanccs.com/">https://www.japanccs.com/</a>
資 本 金	2億4,250万円
設 立 日	2008年5月26日
株 主	電力、石油元売り、エンジニアリング、総合商社、石油開発、鉄鋼、ガス、化学など34社

## 同時配信

エネルギー記者会、苫小牧市政記者クラブ、北海道経済記者クラブ

## <本件に関するお問い合わせ先>

### ◆シンポジウム内容・参加登録に関するお問合せ先（主催者担当）

国際部 鈴木千代子

TEL：03-6268-7387

E-mail：[chiyoko.suzuki@japanccs.com](mailto:chiyoko.suzuki@japanccs.com)

### ◆広報に関するお問い合わせ先

広報渉外部 広報渉外グループ

担当 田中、橋本

TEL：03-6268-7610【報道関係者からのお問い合わせ】

FAX：03-6268-7385

E-mail：[info@japanccs.com](mailto:info@japanccs.com)